

『日韓共同研究報告書2012』（①保修04の一環として実施）

国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究報告書である。

大韓民国文化財庁・国立文化財研究所と共同で発行した。



『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2012年度』（①保修06の一環として実施）

本書は、中期計画プロジェクト「伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究」の本年度の活動内容のうち、代表的なものをまとめた報告書である。

本プロジェクトでは、これまで伝統的な文化財修復材料の適用や適正な文化財修復に対する使用方法の構築、さらには合成樹脂の適用や見直し調査などを目的としている。本年度の報告書では、①表装裂試料データのデジタル化、②文化財建造物における塗装修理材料の使用状況調査—丹塗・弁柄塗・朱塗—、③民家建造物における伝統的な塗装材料の調査と修理、④平等院鳳凰堂の塗装材料に関する調査報告、⑤瑞巖寺本堂内部の欄間木彫などの彩色材料に関する調査報告、⑥瑞巖寺本堂の塗装材料に関する調査報告、⑦巖島神社摂社荒蛭子神社本殿の塗装彩色材料に関する調査報告などの調査研究報告、さらには本年度開催した研究会の報告として各発表の要旨や総合討論、アンケート結果を掲載した。



『日本画・書跡の損傷—見方・調べ方』（保修13-12）

日本画や書跡といった伝統的な装飾文化財について、その作品の状態把握を適切に行うための手引書として編集された市販本である。作品を専門的に取り扱える修理技術者と当研究所の科学的知見をもとに、美術館博物館の学芸員、美術史研究者、学生などが作品の構造と損傷状態を写真や図を中心に網羅的に解説したものである。



『近代建築に使用されている油性塗料』（①保修07の一環として実施）

本書は、2012（平成24）年2月に東京文化財研究所で開催した近代建築に使用されている油性塗料に関する研究会において、文化庁文化財部参事官室（建造物担当）調査官の小沼氏より、指定品となっている建築物に関する油性塗料の使用事例の紹介、及び、失われつつある材料の確保についての文化庁の取り組みが紹介され、続いて、博物館明治村の柳澤氏より博物館明治村における建築物の修復事例に関する詳細な報告がなされ、大澤塗装株式会社の大澤氏からは、油性塗料を含めた日本における塗装史に関する講演があり、最後に、ドイツのドイツ技術博物館のフォルカ・キースリング氏から、ヨーロッパにおける油性塗料の歴史、及び氏の専門である油性塗料に含まれる油に関する講演で締めくくった内容をまとめたものである。

